

平成 30 年 4 月 27 日

平成 29 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する () に ○を付ける	・共同研究 () ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	文芸学部 教授 池上公平	
研究課題名	中世・ルネサンスの美術におけるフランチェスコ会の影響	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	

研究実績の概要（1）

研究目的

筆者は従来、アレツォ、サン・フランチェスコ聖堂のピエロ・デッラ・フランチェスカによる《聖十字架伝》を研究対象としてきた。同作品はルネサンスの初期、15世紀中頃に制作されたが、フランチェスコ会の図像伝統ならびに同修道会の歴史と密接な関係を有する。同修道会が設立され、急速に拡大した13世紀前半という時期は、イタリア中部、北部において都市が繁栄し、社会に大きな変革が起きた時代であり、その影響は美術においてもキリスト教においても、顕著に見られる。それは新たな人間性への志向を示す点に特徴がある。美術においてはフランチェスコ会修道院を中心として、とりわけ十字架に架けられたキリストおよび十字架にまつわる主題の表現の変容に、その影響がうかがわれ、それは後のルネサンス美術の先駆とも見なされる。それゆえ本研究では、ジュンタ・ピザーノ、チマブーエ、タッデーオ・ガッディ、アニョロ・ガッディらを対象として、アッシジ、フィレンツェ、アレツォにおける13世紀から15世紀に至るフランチェスコ会の美術活動を精査し、この展開の複雑な諸相を明らかにすることを目指す。中心となるのは、十字架の美術、すなわちキリストの磔刑におけるキリストの表現に見出される人間化とその展開であり、**Croce dipinta**（「描かれた十字架」。十字架型の板に描かれたキリストの磔刑図）の展開である。この主題をもつ作品の制作にあたってはフランチェスコ会が大きな役割を演じたとされる。また12世紀以来数次に亘ってなされた十字軍による東方遠征とそれによって引き起こされた西欧とビザンティンとの多方面に亘る接触とその影響がきわめて重要な意味を持つ。それゆえこの領域の調査・研究が不可欠となる。このような観点から研究活動を遂行した。

平成29年度研究内容

平成29年度は基礎的な段階と位置づけ、資料収集に重点を置いた。文献は関連するものが非常に多く、すべて収集し得たわけではない、美術史関係の単行図書についてはかなり入手し得たが、定期刊行物等所載の論文についてはまだ十分ではない。また歴史、神学関係についてはいまだ不十分であり、今後も継続して収集を行わなければならない。それとともに入手した文献の解説を進め、現在も継続しているところである。

また平行して作品の現地調査を行った。平成30年3月22日よりニューヨーク、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ワシントン・ナショナル・ギャラリーを訪れた。日程が限られていたため、十分な成果を得ることはできなかったが、その結果、とりわけ、**Berlinghiero, Madonna Kahn, Madonna Mellon**等の作品に見出されるビザンティン美術とイタリア他西欧の美術との関係の難しさを認識するに至った。当面の関心として、アッシジ、サン・フランチェスコ聖堂下院にかつてあったジュンタ・ピザーノによる《磔刑》の成立状況の解明があるが、その前提としてイタリアとビザンティンとの影響関係を明らかにする必要がある、そのためにこれらの作品の調査・研究が不可欠である。

Madonna Kahn, Madonna Mellonの2点については、所蔵館ではコンスタンティノポリスにおける制作と考えているが、作品を実見したところでは、様式的に必ずしもそうは言い切れないように思われる。イタリア的な要素ではないかと考えられる部分も有り、今後なお、研究が必要であることを確認した。

諸々の研究に拠ればコンスタンティノポリス（イスタンブール）のキュリオティッサ修道院聖堂（現カレンデルハネ・ジャミイ）にはラテン人の手になる《聖フランチェスコ伝》壁画が存在、したがってパレオロゴス家がラテン帝国を滅ぼし、コンスタンティノポリスを奪回してビザンティン帝国を復興した1261年以前に遡ることが明らかである。同じくコンスタンティノポリス、アギア・ソ

研究実績の概要（2）

フィアのモザイク壁画《デーシス》はドゥッチョやヤコポ・トッリーティ等イタリアの画家と著しい類似を示す。

一方、ビザンティン側にも西欧の影響を示す作品があり、イスタンブール、コーラ修道院聖堂ナルテックスの壁画には遠近法的表現が見られる。エルサレムで 1131 年から 43 年の間に制作された《メリザンドの詩編》はラテン語の詩編であり、挿絵は西欧出身でありながらビザンティンのスタイルを持つ画家が制作しており、いわば東西融合の結果となっている。

ビザンティンとイタリアとの美術上の影響関係は相互にあり、**Madonna Kahn, Madonna Mellon** についてもその反映を見出すことが可能と現時点では考えている。

かくのごとき複雑きわまりない状況が、いかにして、イタリアの美術の動向に影響を与え、それが **Croce dipinta** に描かれたキリストの磔刑の表現に影響を及んだか、今後はこの点とその背景をなすイタリアとビザンティンの関係に重点を置き、研究を進める。